

昭和 54 年度 第 6 回シグマ研究委員会運営委員会議事録

日 時 昭和 54 年 11 月 16 日 (金) 13:30 ~ 17:30
場 所 原研本部第 35 会議室
出席者 塚田 (委員長, 日大), 中嶋 (法大), 宮坂 (核管セ),
松延 (住友原工), 久武 (東工大), 大竹 (動燃),
飯島 (NAIG), 原田, 更田, 田中, 五十嵐, 菊池 (康) (原研)
オブザーバ : 松本, 浅見 (哲) (原研)

配布資料

1. 前回 (54. 10. 22) 議事録 (案)
2. New Format Specification
3. Reference Guidelines for ENDF/B
4. Epitome of 79 Knoxville Conference
5. Provisional List of Action from the 21st NEANDC
6. NEANDC Discrepancy File

議 事

1. 前回議事録確認

資料(1)の 3 頁下より 8 行目「要求間隔をおく・・・・」を「要求内容をジャンプさせる・・・・」に訂正し, 了承された。

2. 事務局報告

- (1) 人事 : 委員の追加発令の手続きを近く行いたい (浅見)。

ニュークリア・データ (株) から, 本年の参加は見合せたいとの連絡があった (五十嵐)。

- (2) ENDF/B の引用

ENDF/B の引用の仕方について, 田中委員より資料(3)の説明があった。この件は「核データニュース」に掲載することにした。また, 資料(3)

をシグマ委全員に配布することにした。

(3) 来年度計画の作成 : 55年早々の運営委で討議を行うので検討しておいて欲しいとのアナウンスがあった。

(4) 本委員会新名簿作成の準備についてのアナウンスがあった。

3. Johnston氏の来所

田中委員より NEA Data Bank の Johnston 氏が 11月5日～8日に来所し、核データセンターのメンバーと行った討議の概要について報告があり、とくに、資料(2)により中性子実験データ・ファイルのフォーマットの変更について説明があった。また、五十嵐委員より Optical model code の国際的な相互比較についての説明、飯島委員より Error File に関する討議について説明があった。

4. NEANDC 会合の報告

塚田委員長より 9月24日～28日の NEANDC 会合ならびに中国訪問に関するトピックス等について説明があった。これに関連して資料(5)、(6)及び ENDF/B-V の近況等の説明があった。(詳細は省略)

5. Knoxville Conf 等の報告

菊池委員から資料(4)により Knoxville Conf でのトピックスの報告ならびに会議後の訪問先での討議における話題等の説明があった。(詳細は省略)

6. 核データ研究会

松本氏より核データ研究会及びトレーニング・セミナーの準備状況について説明があった。

7. JENDL-3 (3回目)

先回に引き続いて JENDL-3 について自由討議を行った。主な意見は次の通り。

- どうしても必要なのは r production のデータである。
- 30～40 MeV のデータはスペシャルな要求と考えてよい。
- error file をつくるにしても、炉物理、遮蔽などの感度解析とのつながりで見通しをつける必要がある。
- dosimetry file をつくって欲しい。 京大炉でやってもらえな

いか。

- covariance file をつくるタイミングが重要である。
- これらの作業のためにWGの編成を考え直す必要がある。
- WGを mass number で分けるやり方は，J E N D L - 3 の場合には適切ではない。
- E N D F / B - V のようにあらゆる核種を入れるのは無理ではないか。
- 核種を増やすよりも quantity を増やす方が先決である。
- 予算要求のことよりも内容をどうするかをつめる必要がある。
- 小人数でつめた検討を行ったらどうか。

その結果，これらの問題を小委員会で検討することにし，小委員長に原田委員が推薦された。小委員会のメンバーは原田，田中両委員で相談して決めることになった。

次回は1月18日(金)13:30より東海研で行う予定。